

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
✓ 子育て
✓ 福祉
✓ 教育
行政課



こどもの未来を明るく照らす“道しるべ”
「こども第3の居場所」



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

ホームタウンの社会課題を 遊休施設 を活用して解決

将来の選択肢を増やす、バスケットボール以外の多様なコンテンツも充実

地域のこどもの笑顔が自然と集まる サードプレイス



プログラミングゲーム



バスケット放映



バスケットボールコート



マンガコーナー



グッズ販売コーナー

THE LIGHT HOUSE KAWASAKI BRAVE THUNDERS (ザ・ライトハウス) 川崎ブレイブサンダース



#こども食堂 #居場所づくり #ひとり親世帯支援 #持続的な社会課題解決

Keyword !

©B.LEAGUE



ビジョンの
仮説構築

川崎区の貧困問題、サードプレイスの不足

- 「&ONE」活動（SDGs プロジェクト）を通じて、ホームタウンである中原区におけるこどもたちが放課後を安全に過ごせ、運動もできるサードプレイス不足を認識
- こどもの貧困問題（体験、学習、食事）の複雑さを知る



ビジョンの
構築・共有

バスケットボールも出来るこどもの「第3の居場所」

- 東急不動産株式会社より高架下の利活用提案を受ける
- ホームタウンのこどもたちを取り巻く課題を解決する場として、活用を検討
- スポンサー企業や行政との連携体制を構築し、実現すべき場所の具体化を進める



PoC

早期から地域行政と連携し、解決すべき課題の解像度向上

- 実際にこどもに利用されることを重視し、近隣のこども文化センターや、若者の居場所運営団体に課題をヒアリング
- 安心して過ごせる交流の場
- 将来の選択肢を増やして欲しい思いから、多様なコンテンツを用意。こどもの成長を促すヒアリング、バスケットゴール、宿題や漫画を読んでも過ごせるスペース、プログラミングゲーム、バスケット放映、月1回程度のこども食堂等



事業開発

事業計画策定

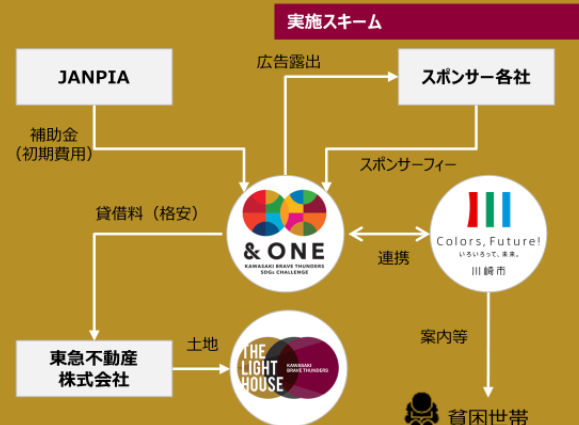
- 小学生から高校生まで、すべてのこどもが環境に関わらず利用できる環境を整備
- 休眠預金補助金を活用し、イニシャルコストを1/3に削減
- スポンサーからの支援を受けながら、施設運営や地域貢献活動を実施



事業育成

行政連携によりターゲットへのリーチ力強化

- 子育て・福祉（貧困支援）部署と連携し、近隣の小中学校へ案内を配布
- こども食堂を月に1回実施し、“孤食”や“関係性の貧困”といった社会課題へアプローチ
- 選手やスポンサー連携により、地域企業を巻き込み支援の輪を広げる



活用制度

一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
休眠預金活用事業補助金

施設概要

- 住所：神奈川県川崎市中原区新丸子964-7 東急武蔵小杉駅高架上
- 営業時間：15:00～18:00（平日） 13:00～18:00（休日）
- こども食堂：月に1回実施(第3土曜日 12:30～13:00)



Shape the future
with confidence
EYはサステナブル・アカウンタビリティ
報告書を通じて、社会課題の解決に向けた
委員会・事務局・関係者との連携を
推進するための一部を支援しています。



特徴

クラブ主導の学校以外の場所でもこどもたちが一緒に遊び、
学び、過ごすことができる「こどもの居場所」

安心して過ごせる
第3の居場所

スタッフが常駐し、
こどもが安全に過ごせる
空間を提供。学童的
に、幅広い年代と
交流や、友達作りの
コミュニケーションを
支える

こどもが楽しめる
多様なコンテンツ

バスケットやバスケ漫
画だけでなく
プログラミング体験など
複数のコンテンツから
好きな時間の過ごし
方が選べる「家・学校
に続く第3の居場所」

地域課題も解決
する交流拠点

“学校もクラスも違う友
達とワイワイ楽しく食
事ができる場所”で、
月に1回「こども食堂」
を開催
利用までの心理的
ハードルを下げる

バスケットボールを軸に「こどもの居場所」を創出する

- 理念に共感し、事業に参画してもらえるスポンサーや
行政の補助金探しが重要
- 事業の価値、成果を定量的に示せるKPI設定が重要
- 正しく社会課題を認識するため、現場レベルでの
ヒアリング、行政との認識合わせが必要



川崎ブレイブサンダース
代表取締役社長 川崎 渉

こどもの未来を明るく照らす“道しるべ”（こどもの居場所）創出のきっかけ
東急さんにて土地の活用を提案いただき、同時期に休眠預金活用事業でこどもや若者・地
域コミュニティ支援事業への助成金の案内があった。そこで川崎市に相談したところ、行政
が運営しているこども文化センターにて体を動かせる施設が足りていないとのことで、
川崎のミッションとして掲げている「川崎から『スズク』の未来を」を体現できる好機と考えた。

運営・維持にあたって

創出費用は助成金に賄えたが、その後の運営費用は助成されないため、当初は赤字事業
と言われていた。しかしながら、地道な営業活動により応援したいと言っていただける企業に集ま
れた。また、利用しているこども達が自ら開店や閉店時の片付けを手伝ってくれたり、運営の省
力化の積み重ねにより3年以上の間、維持することができているのは、感謝しかない。

担当者の声へ自治体と連携したまちづくりへの想いへ



宮脇 朱子 さん

川崎市様には事業立ち上げ時に、地域の社会課題について教えていた
だり、地域連携等でも多くのアドバイスをいただきました。また、参考に
なる施設へも同行いただき、視察を行いました。そういった川崎市様との協
力のお陰で、3年以上にわたり安定した運営ができております。
クラスや学校、年齢が違っても、ゴールボールがあれればこども達は自然に
仲良くなり、そこにはいつもの仲間の笑顔があり、スタッフの温かい声援。
そんな風にここからこども達を優しく照らし、安心できる居場所にしてい
たいと考えています。

実現までの課題・失敗談

1. 財源の確保
事業目的を考慮し、利用料金を取らない
ため財源確保が難しい。
2. 民間企業の補助金活用
行政やNPO団体と近い公共性の高い
事業だが、株式会社等の企業特性により
活用できる財源が少ない



現時点での成果

1. 小学校低学年が中心に利用
平日30-40人/土日70-80人が訪れ、
多い時は、約100人が訪れる
2. 新たなコミュニティ形成
スタッフとこどもたちの間に、学童的な
コミュニケーションが生まれており、
不登校気味だったこどもが、学校に行ける
ようになった事例もあり



B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

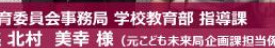
小中高生が安心して過ごせる居場所を
提供。地域のコミュニティづくりを支える。

企業を巻き込むチカラ

休眠預金補助金やスポンサー支援を得て
運営。社会課題解決に企業と取り組む



川崎市 こども未来局 青少年支援室
担当課長 大原 芳信 様



川崎市 教育委員会事務局 学校教育部 指導課
担当課長 北村 美幸 様

※立上げ当時担当されていた北村様にもお話を伺うことが出来ました。（所属は2025年取材時点）

公民連携のポイント

人材連携

法制度・許認可

財源

土地の所有・管理

施設の所有・管理

運営方針

市民との合意形成

リスク管理

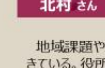
広報・PR

スポーツ団体×企業体の強みを活かした居場所づくり

初めにご相談を受けた時は、非常に驚きました。運営いただけるのは有難いですが、
ランニングコストもかなり多くの団体が持続的な運営に苦戦するので、
しかし、その心配もそこに、“行動力”や“突破力”、“地域企業との連携”を活かし、
地域を大切にするスポーツ団体らしく、民間企業の事業力の両面から、現在に至る運営
を続けていらっしゃるのには本当にすごいなと思っています。
川崎市のこどもたちのために、学校訪問でのバスケット教室やゴールの寄贈など、一生懸命に
活動して下さっているの本当に感謝しています。

B.CLUBとの公民連携の秘訣

行政もマインドセットが必要。自分の所掌する範疇から少し手を伸
ばして、共に考え、時には一緒に汗をかいて。行政としてもできる限
りの応援をするというマインドが地域づくり、まちづくりに必要だと思
う。



北村 さん

地域課題やニーズが多様になるなかで、答えが無い仕事が増え
てきている。役所で把握出来ない企業の情報分野や、専門性を
理解するためにも学び続ける姿勢が必要。



大原 さん